

コイヘルペスウイルス病のまん延防止に挑む！

平成 15 年 10 月 31 日、日本国内で初めてコイヘルペスウイルス（KHV）病の感染が茨城県霞ヶ浦で確認され、都内でも 11 月 20 日に KHV 病の感染が確認されました。東京都では、発生確認後ただちに産業労働局に KHV 対策本部を設置し、研究機関と行政が一体となってまん延防止に取り組みました。東京都水産試験場では主に診断や消毒の指導などを行なっています。

実施機関	資源管理部	事業名	
------	-------	-----	--

背景・ねらい

平成 15 年 10 月 31 日、日本国内ではじめてコイヘルペスウイルス病（以下 KHV 病と略す）の発生が茨城県霞ヶ浦で確認されました。KHV 病はコイヘルペスウイルスというウイルスによって引き起こされるコイ特有の病気です。死亡率が高く、まん延した場合、産業に大きな影響を与えることが懸念されるため、平成 15 年 6 月に持続的養殖生産確保法の特定疾病に指定されました。国内での KHV 病発生を受け、東京都でも 11 月以降検査や調査等まん延防止対策を開始した結果、11 月 20 日に都内の釣り堀で初めて KHV 病の感染を確認しました。

成果の内容・特徴

コイヘルペスウイルス病の発生を受けて、検査のできる人員の確保（国の技術研修会に職員を派遣）や機器等を整備し検査態勢を整えました。

東京都での発生確認と同時に産業労働局に KHV 対策本部を設置し、行政と研究機関、また研究機関同士が協力して、一丸となって KHV のまん延防止に取り組みました。

霞ヶ浦産コイの取り扱いがあった施設を中心に、聞き取りなどの調査を行い必要な場合はコイを採取して検査を行いました。

42 カ所（194 検体）の検査を行い、陽性結果の検体については国の研究所に送付し、確定診断を行いました。最終的に陽性と判定された検体は 6 カ所（13 検体）でした。

検査の結果、陽性が確定した施設について、魚の処分や消毒などについて、指導を行いました。

成果の活用と反映

KHV は病気の発症が水温と関係しています。今後水温が上がって発病しやすい時期にむけて、天然河川における監視体制を整えるとともに、検査態勢についてもさらに充実をはかります。

また、都民の方を対象として KHV の正しい知識の普及につとめ、風評被害の防止につとめます。

（澤崎 昌子）

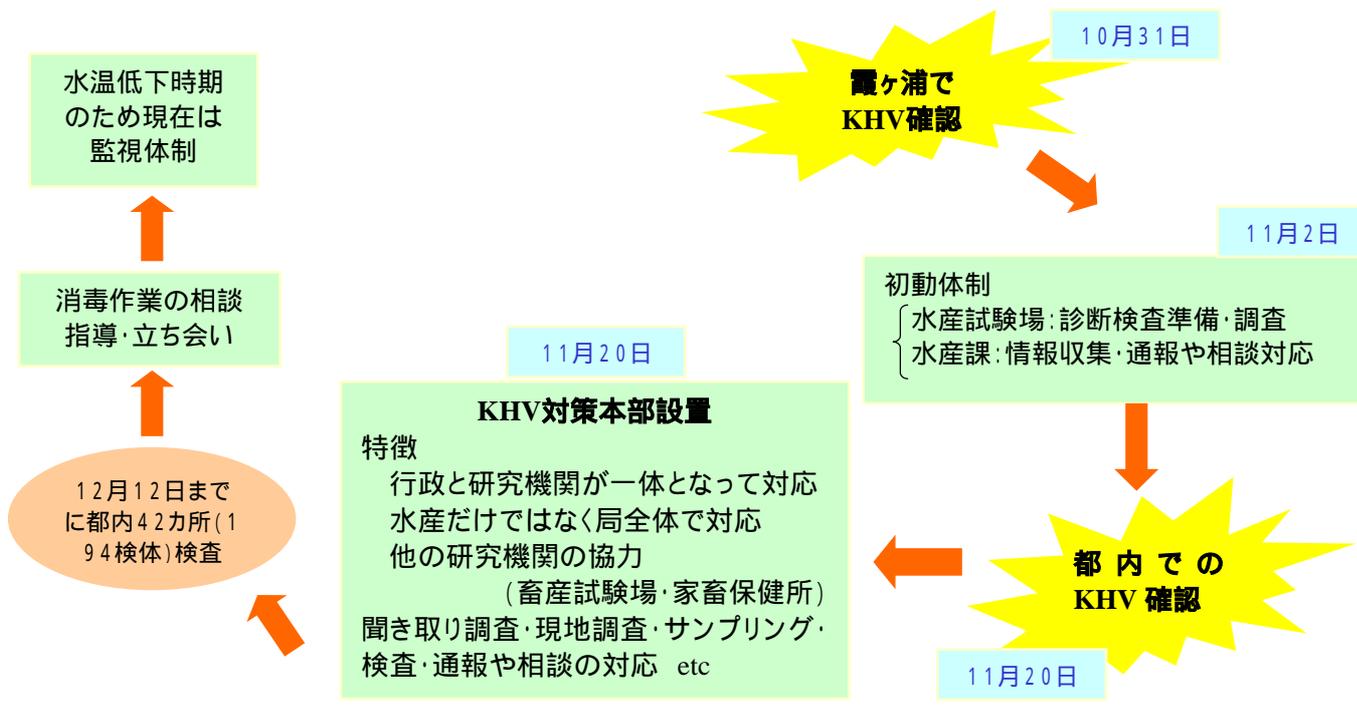


図1 東京都のKHVへの対応



図2 陽性魚エラの病変

- コイの測定とエラの観察を行った後、エラを切り取り-20 で保存する
- エラから薬品や遠心分離器などを使用して DNA を取り出す。(感染していた場合ウイルスの DNA が含まれる)
- PCR 法によりウイルスの遺伝子の一部を増やす
- 1%アガロースゲル電気泳動の後、DNA を染色、紫外線の下で観察する
- KHV が感染していた場合、特定の場所にウイルスの遺伝子によるバンドが見られる

図3 KHV 検査の流れ

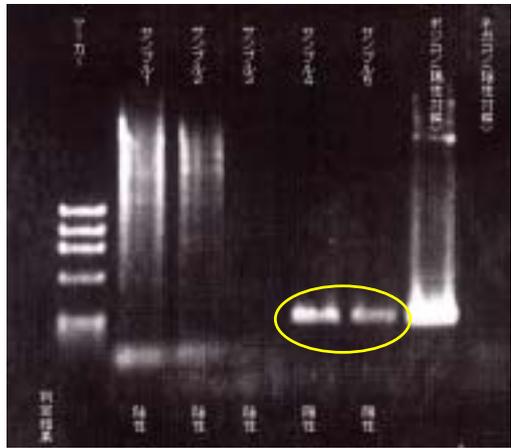


図4 陽性が確認された電気泳動像

表1 検査機関および検査結果

検査区分	検査機関	検査数		陽性結果	
		検査箇所	検体数	検査箇所	検体数
一次診断	水産試験場	26	117	7	8
	畜産試験場	4	19	0	0
	家畜保健所	12	58	1	1
確定診断	養殖研究所	8	24	6	13